

## 仙北市総合教育会議 会議録

開催日時 平成28年5月31日(火) 午後0時30分

開催場所 角館庁舎 西側庁舎2階 第4会議室

### 構 成 員

|                  |         |
|------------------|---------|
| 仙北市長             | 門 脇 光 浩 |
| 仙北市教育委員会委員長      | 安 部 哲 男 |
| 仙北市教育委員会委員長職務代理者 | 河 原 田 修 |
| 仙北市教育委員会委員       | 佐久間 健 一 |
| 仙北市教育委員会委員       | 坂 本 佐 穂 |
| 仙北市教育委員会委員・教育長   | 熊 谷 徹   |

### 出 席 者

(市長部局)

|                  |         |
|------------------|---------|
| 総務部長             | 藤 村 好 正 |
| 総務部総務課長兼事務事業移転室長 | 戸 澤 浩   |
| 総務部総務課主事         | 小 林 佳 織 |

(教育委員会)

|               |         |
|---------------|---------|
| 教育部長          | 畠 山 靖   |
| 教育次長兼教育総務課長   | 田 口 和 典 |
| 北浦教育文化研究所長兼参事 | 浦 山 英一郎 |
| 教育総務課参事       | 能 美 正 俊 |
| スポーツ振興課係長     | 平 岡 太 一 |

## 案 件

- (1) 学校適正配置に関するアンケート調査について
- (2) カヌー競技に関するオリンピックホストタウン誘致について

藤村総務部長        それでは、平成28年度第1回目の仙北市総合教育会議を始めます。

はじめに、市長から挨拶をお願いいたします。

門脇市長            お忙しいところ皆様方とお時間を共有して、様々な議論、協議ができることを大変嬉しく思っております。よろしく願い申し上げたいと思います。

今日ちょっと安部委員長が少し遅れるということでしたので、少し早めに始めさせていただきたいと思っております。

これまでずっと仙北市の行政に、仙北市が誕生して10年経って今ちょっと振り返る様々なタイミングがあったわけですが、このあとの10年を考えると、ちょっと遅きに失した気がしなくはないのですが、やっぱり、人材の育成が一番の将来の未来を拓く力になるということに、改めて思いがいたっております。

人材育成というのは、企業内でも行っております、事業所内でも行っていますし、また、高校教育、小、中の義務教育も教育という人材の育成ということではないか、と理解をしておりますけれども、これまでの国の指針とか、また、秋田県の教育向上の様々な取り組みの範疇に収まらない時代の要請が、この後の10年はきっと起こるだろう、というふうに予測をしなければいけない現状だと思えます。国の基準だとか、市がふるさと教育を一生懸命やっていることだとか、当然一つ一つの評価をすべき大変重要な取り組みを行っておりますけれども、さらにこの後の10年を見据えたときに、どんな人材が必要なのか、という考え方をもう少し明確に持って、子どもたちの教育にあたる必要があるのかな、というふうな思いにいたっております。

す。

遅きに失したというのは、これまでそういう考えを漠とした中で、行政が様々な福祉であったり産業振興であったりを行ってきましたけれども、明確なビジョンを持てば持つほど、それに必要な人材というその姿というものも明確になってくるわけで、特に今、総合戦略が今年から本格的に始まっていますけれども、この5年間でどれだけのことが成し得るかということが、その次の5年、その次の5年に関わってくるのですけれども、今、実は、この5年間の総合戦略を「K P I」と言って、評価がしっかりと数値化されておりますので、この数値の達成に向かってこの5年間走り続けるしかないのですけれども、その「K P I」を達成する人材が、少し厳しい話をするといない。そういう現状を改めて今感じています。もう少し早く、人材の育成に本腰を懸けていくべきだった、というふうに思いますが。

遅きに失したけれども、これからしっかりとその対応をしなければ、次の10年、次の20年の仙北市がないということも明らかですので、教育という場面で、また行政は、産業振興、福祉の向上というマンパワーの確保という面も含めて、人材育成に一生懸命あたっていきたいと思えます。その一番の基盤となる、幼年期、乳幼年期、少年期の教育の充実の必要性は、さらに高まったというような思いで、皆様方と協議を重ねていきたいと思えます。

どうかよろしくお願い申し上げたいと思えます。

藤村総務部長

それでは、次第3の協議案件に入りますけれども、ここからの進行は、会議の主催者であります市長が行いますので、よろしく願いいたします。

門脇市長

はい。それでは私の方から、ちょっと安部委員長がいなくてすごく心許ないですけれども、ゆっくりと始めます。

協議案件「(1) 学校適正配置に関するアンケート調査について」を、協議案件としたいと思います。教育部長の方から説明をお願いします。

畠山教育部長

そうすれば、みなさんに資料を配布させていただいておりますので、資料1から4になりますけれども、最初、資料1をご覧いただきたいと思います。

これはですね、先日5月20日でしたけれども、学校適正配置研究検討会の時の資料でございます。

2ページをご覧ください。既に、第1回目の検討会、委員の方々に出席をいただいて終了いたしました。その時の内容でございます。

(1) に設置目的と開催概要とありますけれども、設置目的の中に、全国的な少子化によって児童生徒数が少なくなっていて、仙北市でも複式学級も生じてきているということで、学校規模の適正化が課題となっているということで、委員の方からは、研究の検討会を設置いたしまして、小、中学校の適正配置の在り方について提言をいただきたいということでお願いし、了解いただいております。

(2) の検討委員会の開催日程ですけれども、先日5月20日に行いました内容は、右側の概要のとおりです。この後、また資料がでてきますけれども、アンケートの実施を、来月から8月いっぱいぐらいで行いたいということで、そこに対象者2,000人、1,600人、424人とありますように、4,000人ちょっとの方々にアンケートをお願いして、実施するというごさいます。2回目、3回目、4回目、5回目ということで、そこに開催月の予定月がありますけれども、1月には、提言書のまとめをお願いしたいということで、先日もお願いしてごさいます。

(3) 検討委員会の所掌ですけれども、そこに4つありますけれども、「学校統合等の基本方針」から始まって一番下の「適

正配置を推進していく上で必要と思われる事項」までということ  
で、お願いしてございます。

3 ページを御覧ください。これは、今の平成28年4月1日  
現在ですけれども、小、中学校の生徒・児童、小学校の児童、  
中学校の生徒さん方の人数と学級数でございます。上矢印、下  
矢印の合体したところがありますけれども、その部分に関し  
ては、複式学級ということになっておりまして、中川小で2つ、  
桧木内小で1つという状況になってございます。

4 ページを御覧ください。これは、学区、通学の区域でござ  
います。右下の方には、カラーで色刷りしたものがありますけ  
れども、ここの範囲がその小、中というような範囲です。上  
の方には、字名等がございますので、御覧いただきたいと思  
います。

5 ページになりますけれども、こちらが児童生徒数の将来の  
推計でございます。色によって学校ごとに分けておりますけ  
れども、一番上は小学生、中学生というふうになってござい  
ます。中段が、小学校児童の生徒の移り変わり、下段が、中  
学校の生徒の移り変わりということで、微妙ながら平行より  
も少しずつ下がっているということが、およそのラインでな  
いかなということ、平成33年度までのものです。

6 ページを御覧ください。学校規模には、大規模、小規模あ  
るわけですけれども、大規模、小規模なりのメリット、デメ  
リットをまとめたものでございます。上半分が、小規模校のメ  
リット、デメリットを載せてございます。例えば、小規模校の  
学習面でのメリットであれば、「児童・生徒一人ひとりに目  
がとどきやすい、細かな指導が行いやすい。」逆に、デメ  
リットとなると、「集団の中で切磋琢磨する機会が少なくな  
る。」ということがあります。生活面でのメリットであれば、「  
児童・生徒一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな生  
活面での指導が行いやすい。」逆にデメリットとしては、「  
組織的な体制が組みにくい。」ということもござい  
ます。下半分は、大規模校のメ

リットとして、学習面であれば、「集団の中で切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい。」逆にデメリットとしては、「児童、生徒一人ひとりの把握が難しくなってしまう。」というようなことがあります。また、生活面でも様々なメリット・デメリット等が考えられます。

7 ページを御覧ください。これは、先日開催いたしました、検討委員会の設置要綱でございます。

8 ページに、検討委員会の委員の方々の名簿を載せてございます。一番上の前角館高等学校長でした青柳さんが、委員長に決まりました。そして2番目の、元仙北市副市長でした浦山さんが、副委員長ということに決まっております。

検討委員会の資料の説明につきましては、以上になります。

資料2を御覧いただきたいと思っております。これは、前にも似たような感じのものを配布させていただきましたけれども、学校別の児童生徒数の将来推計ということで、平成33年度まで、先ほど折れ線グラフでありましたけれども、あれを数値化したものです。

1 ページの上が角館小学校、下が中川小学校です。黄色と青の部分がありますけれども、青の部分は、一桁ということで9人までの状態の場合は、青のマーキングをしてございますので、参考に見ていただきたいと思っております。2 ページが白岩小、生保内小、3 ページが神代小、西明寺小、4 ページの上が桧木内小、その下から中学校になって人数の移り変わりということで、最後6 ページの下が桧木内中学校となっております。参考に見ていただきたいと思っております。

資料3を御覧いただきたいと思っております。資料3ですけれども、学校教育に関するアンケートでございます。同じようなのが1 ページ目、2 ページ目とありますけれども、文章が若干違うようになっておりますので、左上の方に、1 ページ目は保護者向け、2 ページ目が地域住民向けというふうなことの内容でございます。

内容につきまして、3ページを御覧いただきたいと思えます。3ページから一番上の方から男女別、年齢別、地区別ということで、丸をつけていただくということで、4ページには学校に対してどんな教育を望みますか、というようなことを、選んでいただくという内容でございます。

5ページになりますと、小、中学生にとって、どんな環境が大事だと思えますか、ということの項目を選んでいただくということでございます。

6ページになりますと、お住まいの地域ということで、各地域の方々から回答をいただきたいなということで、上段は、学校について満足していること、下段は、ちょっと心配だなというようなところを、複数回答いただければなというふうに思っております。

7ページになります。9番の資料は、先ほどの小、中学生のトータルの折れ線グラフです。下の方になりますけれども、前は、小、中学校の今後の統合の考えを、というふうにしてありましたけれども、先日の検討会でもありましたけれども、やっぱりそこは小と中は分けた方がいいのではないかと、ということで、小は小、中は中というふうに、ここはアンケートの変更をしております。

8ページには、通学の時間ということで載せてございます。これぐらいが適当でないか、適切かなということで載せてございます。

このアンケートですけれども、今のところ模範としてはこういう状態になっておりますけれども、今後、議会等もありますし、この後の協議・検討も含めて、若干の訂正等、変わるところもあると思えますので、御了承いただきたいなというふうに思います。

資料4に移ります。資料4は、先日5月20日の検討委員会の時に、様々な委員の方々からいただいた意見をまとめたものでございます。アンケートについて確認したこと、意見として

挙げたこと、そういったことも含めまして、様々な意見がございました。「学校は地域の活力の源だからということで、それがもしなくなればというようなことも考えていかなければならない。」ということとか、「地域に子どもの声がなくなると大変寂しくなる。」ということ、「学校と地域と一緒にどうしていくかということを考えていかなければいけない。」そういった様々な意見もありますけれども、そういった意見をピックアップし、結果をまとめたものでございます。

資料1から4まで説明させていただきました。資料の内容の説明は以上でございます。

門脇市長

はい、ありがとうございます。

教育委員会の皆様には、この話はもう何回か、アンケートの内容とかは、皆様で御議論いただいている内容だったでしょうか。

教育委員会

(「はい。」という声あり)

門脇市長

そういうことであれば、ここの場面では、もし私たちが議論しなければいけないと思われるものは、どういう項目が考えられますか。協議案件になっていきますけれども、報告というような取り扱いでよろしいですかね。どうなのでしょう。

畠山教育部長

はい。これから、アンケートを採るところなので、その結果が出れば、さらに、協議が深まることもありますけれども、アンケートを採る前であっても、このような現状にあるということを踏まえて、それから各委員の方々からの意見も踏まえて、方向性とまではいかななくても、じゃあこうしようか、ということまでは、厳しいかもしれないですけれども、そのところの進むこれから先のこんなことを、こんなことをというような、委員の方々にももちろん伝えたいと思いますし、それを



踏まえて、協議していただければありがたいです。

門脇市長           この内容は、議会の皆様にはどんな形で話なっているでしょうか。

熊谷教育長           先日の議会でも、常任委員会の方にも提出させていただいて、例えば、アンケートの内容について、これの方がいいのではないか、という御意見をいただいて、それも組み入れながら若干訂正して、けっこう修正等も加えております。

門脇市長           なるほど。その内容で、この資料3が挙がっていると思えますけれども、この資料3については、委員の方々、全部御覧になっているということによろしいですか。

委員                (「はい。」という声あり)

熊谷教育長           そうですね、いろいろな形で目を通していただいて御意見等いただいております。

畠山教育部長       先ほどの、「統合についてどう思いますか」というところは、この前の会議の時に出了た話なので、やっぱり小学校は小学校、中学校は中学校で分けた方がいいということなので、そこに関しては、まだ委員の方々には伝わっていなかったと思います。

門脇市長           そうすれば、前回の御議論の経過後に、このアンケート、資料3ができていうところなので、この時間経緯の中で、もしかして今、御覧なっただいて様々な思いがあれば、この場面でお聞きするのが有効だと思いますので。

では、河原田委員の方から何かあればお願いします。

河原田委員長       はい。アンケートに関しては特にないのですけれども、実は、

職務代理者

もうちょっと資料として欲しいなというものがあまして、この間から見ていましたけれども、各小学校、中学校から一番遠い子どもの通学距離とか通学時間がどのくらいあるのか、というのをちょっと知りたいのですね。それによっては、統合した場合に、その距離がまたどのくらい時間かかるのか、という資料をできれば欲しいです。

例えば、生保内学小学校、生保内中学校から玉川方面、あるいは田沢湖周辺、田沢湖高原辺りからもたぶんお子さんがいらしてる、学校に通学している可能性がある、あるいは桧木内小学校なんていうと、上桧木内の戸沢っていうとかなりの距離があるのではないかなと思って、その辺の資料をもうちょっとできれば欲しいなと、あるいは、あともう一つは、各学校間の距離もできればあれば、それに付随した資料として、どのくらい移動する距離がでてくるかな、というのが出てくるのではないかなと思ひまして、その辺の資料を、できれば揃えていただければなと思ひました。

確かにこのアンケートの中に、車でどのくらい、あるいは通学にどのくらい時間がかかりますか、というアンケートがありましたけれども、例えば、徒歩と自家用車とでは、同じ10分でもかなりの距離の差が出てくるので、その場合に、それを同じ10分の括りでいいのかなというところがありました。

国からの合併の指針とかっていうと、小学校だと大体、通学距離が4キロ、中学校だと6キロが望ましい。時間とすると、最近では、車で一時間以内であれば、まず適正な範囲ではないかというような指針が載っていたので、そういう資料があれば、もうちょっと色々参考にできるのではないかなと思ひました。以上です。

門脇市長

はい、ありがとうございます。

ごもったもな御指摘であったと思ひます。この資料というのは、次の総合教育会議の場面でまた資料を提供していただい

て、それを基に、また御議論させていただくということによろしいでしょうか。

河原田委員長 はい。

職務代理者

門脇市長 ありがとうございます。

坂本委員、何か。

坂本委員 はい。もう何年も前から、話し合われてきたこの学校の統合の問題ですけれども、今、資料4の、検討委員会の時に出た意見を読みまして、もっともだなと思いながら読んでおりました。

3つ目の意見ですか、統合するとどうなるのかというイメージが一般の人は持てないという、実際に自分に小学生の子どもがいれば別なのでしょうけれども、そういったところで、地域の人がどう考えているのかというのは、もっとこう深く踏み込んで調査する必要があるのではないかなと思いました。

それと、このアンケートの内容に関しても、統合することを前提に設問、というところがチラチラっと見えまして、非常にデリケートな問題ではありますけれども、もうちょっと設問の内容を吟味する必要があるのかなと、今更ながらちょっとそういうふうに思いました。

あと、ここで言うようなことかどうかわからないのですが、県内のどこかの町で、公立の「義務教育学校」というのができたというニュースを耳にしまして、例えば、仙北市内でも、桧木内地区とか、そういった方向にはいかないのかなというように思いもしています。以上です。

門脇市長 はい、ありがとうございます。

今、坂本委員からお話いただいた義務教育学校について、状況をお願いします。

熊谷教育長

はい。井川小学校ですね。義務教育学校ですけれども、井川の場合は、小1、中1ということではなくて、9年のスパンで6・3にしたり4・5にしたり色々できるわけです。それが法律的に許されるようになったわけですが、ただ、あれって、私も大変素晴らしいことだと思うのですが、例えば、部活とかの問題が解消できないわけです。要するに、桧木内小、中学校を義務教育学校にしたとしても、例えば6・3にしたとしても、やっぱり西明寺中とか神代中とか統合しない限り部活はどこまでも部活であるし、校内の問題は解決できるけれども。非常に良いことは、小学校に中学校の先生方が行って、教科を教えられるのですね。例えば、3、4年生なんかにも専門の理科の先生とか、数学の先生なんて教えることができ、それから英語なんかもできるわけです。ただ、部活のそういった問題は解消できないわけです。井川は意欲的にやっておりますけれども。

坂本委員

部活動のために統合するわけではないので、そこが理由にはならないと思うのですが。

熊谷教育長

そうですよね。全くそのとおりなのですが、統合を声高におっしゃる方は、野球のチームができないのではないかというのが、一番大きな声なのです。

坂本委員

スポーツ活動とか吹奏楽もそうですけれども、そういうのこそ、学校の垣根を取り払って地域のチームっていうのができたらいいなと思うのですけれども。

熊谷教育長

それが今許されておまして、どんどん合同チームでやっているのですよ。

ただ、それでもやっぱりそうおっしゃる方々は、母校の名前

で出たいと。

坂本委員            どちらもわからないではないですが、どっちにしても、解決にはならないかなと。

熊谷教育長        吹奏楽も、野球もこの前合同チームで優勝したし。頑張っているのですけれども。

門脇市長            はい、状況が色々あるということですね。  
佐久間委員からは何か。

佐久間委員        今回のこの問題の発端は、この前話の中で色々な質問が出たという中で、統合ありきでとの問題とか色々ありますけれども、一つ確認の意味で。また事務局の皆さんにお叱りを受けるかもしれませんが。

この問題が出た発端はやはり、仙北市総合教育会議が発足して、この学校問題をどうしようかと基本的な問題を話し合ったわけですね。その中で、人口はこのとおり減り、文科省から統合の指針が出た。それで、色々な問題を市長部局と含めて、教育について骨組みを作りましょう、ということでスタートしているのです。それが基で、総合教育会議ができて、この中で話をして、それでは色々な学識を持った委員の皆さんに出てもらって話を聞いたらどうでしょうか、というのが原点なのですね。それで、地域から色々な委員の皆さんから出てもらって知恵を聞きましょうと、その中でアンケートを採ったらどうでしょうか、ということがスタートの基になっているのです。それでこの検討委員会の設置目的のところ、そういう趣旨でこれができる上がっているということが、ちょっと薄く出ているのですよ。というのは、「そのため仙北市では、総合教育会議でも学校再編を案件として協議して」とあるのですけれども、「仙北市総合教育会議でも」ではなく「仙北市総合教育会議で」と

して、地域の意見を聞いて、学校再編、人口が少なくなってきたからどうしましょうか、ということをやっていきましようということでスタートの骨組みができて、というのが薄くなっているのです。その辺りもし、議会が開かれて、仙北市総合教育会議ではどういう骨組みでこれを作って皆さんに問いかけを図ったか、と言われた時どう答えるかとなれば、やはりその辺りちょっとかかるスタートのところをやってもらいたかったなど、もうスタートしていますけれども。それがちょっと感じたところです。これは、私の意見です。

もし議会が始まった時、総合教育会議が骨組みなっているので、この全体の統合ありきで言ったのではないかっていう色々な意見が出始めているということ、それに答えるとなると、この会議で色々な委員の皆さんから意見を聞きたい、アンケートをとって方向を聞きたい、父兄、保護者の方々から意見を聞きたい、どうでしょうかということで、ここで会議して、それでは今年内にやりましようという骨組みを作ったということ、最初に皆さんに話ししてもらって問いかけていかないと、統合ありきでこの会議が出たのではないかと考えられるのではないか、という懸念をもったという、これはあくまでも私の意見でそういう心配をもったということです、皆さんが進める場合に、そこを一つ確認しながら進んでいってほしいなと思ったところです。

あと事務局では、皆さんから意見が出たというのは、今回選任された委員の方々から、何について一番意見があった、というのを説明してもらいたいなと思っています。また、どの部分が一番心配なことで質問が集中したか、ちょっと後からお願いしたいと思います。

門脇市長

はい、ありがとうございました。

一点目の、例えば、議会で今のような御質問があった時に、御答弁されるのは教育長だと思いますけれども。

教育長、先ほどの佐久間委員の一点目の方の総合教育会議から生まれ出ているもの、というようなスタンスの御発言をしなければ、私たちの思いがまた違うことになってしまう可能性がありますので。

熊谷教育長 先日、市議会の一般質問の時に出ましたけれども、総合教育会議ということで出ています。その中で市長からこういう御発言があったと、それから総合教育会議の中でもこういう発言があったという形で、原稿はこちらの方で書いておりますけれども、私もそのような発言で回答しております。

佐久間委員 そうですね。私たちこのメンバーが、これを起こした最初のスタートなので。

熊谷教育長 表現が御指摘のように、「でも」というような表現になっておりますけれども、ここから出発しての我々が構築してきた、というところをきちんと伝えていかないといけないと思います。

佐久間委員 そうですね。そうやってもらわないと、「市長から出たのではないか。」とか、「統合ありきで進んでいるのではないか。」という面が御心配なられるのではないかとおもいます。

それから、どういうのが一番問題になったかというのを一つ、お願いします。

門脇市長 資料4に整理されている内容の中で、私たちも非常に興味深いところですので、委員会での典型的な御議論の方向性の、お声の方向性の高いところをちょっとご紹介いただければありがたいのですが、全部は必要ないのですが、特に、こういう話の傾向が強かったな、と思われるところをお願いします。

田口教育次長

委員の方からいただいた意見について、特に強く感じたのは、「学校は地域の活力の源である」あるいは、地域から学校がなくなったその姿を実際に経験している校長からは、「今後の学校がなくなった地域に対して、住民の皆さん方は、本当にイメージを持てているのか」というふうな同様の御指摘がたくさんありました。

つまり、安易に統合、統合ということを推し進める、意見を十分に聞かないで推し進める、というのが心配な声が多かったように思いました。

先ほど、統合ありきというアンケートに傾向が見られるという御指摘がありましたが、浦山所長、もちろん私も、教育長も、部長もそうですけれども、統合ありきというのが出ないように、最新の注意を払って設問を作って参りました。その提案の内容も、全く同じでございます。

我々事務局といたしましては、総務文教常任委員会、それから、定例の教育委員会、総合教育会議、そして、適正配置研究検討委員会、4つの委員会からいただく貴重な御意見を、ここに溶け込ませ、練り込ませて、ここに案として提出しているということですが、前回の適正配置研究検討委員会の中では、さらにアンケートの内容に関して、ここを変えた方がもっと良いのではないか、という意見がありました。

私が特に、耳にした意見の中でこれは忘れてはならないと思ったのは、学校統廃合というのは、学校教育の問題だけではないと。これは、地域を維持する行政の在り方を問われているのだ、というふうな御意見を発してくださった方がいました。学校教育は、もちろん我々教育委員会で扱うべき問題ではありますけれども、やはり今後地域をどう支えていくのか、活性化していくのか、維持していくのかということも、我々は頭から離してはいけないのだな、ということを感じたところでありま



さらに補足を、浦山所長の方からお願いします。

浦山北浦教育文化研究所長 はい。今、次長がお話したとおりでございます。

やはり、それぞれ地域からいらっしゃった方々ですので、自分の地域に対する思い、なんとかこの地域を維持していきたい、活性化していきたいという思いが強い皆さんでございました。学校というのが、地域を支えて行く上での非常に重要な核になっているということで、いずれ、くれぐれも慎重に、地域の方々の声を十分に汲み取って進めていっていただきたい、というような意見でございました。

門脇市長 はい、ありがとうございます。

佐久間委員、そのようなお話のようでございますけれども。

佐久間委員 はい、ありがとうございます。

門脇市長 はい、以上の流れからいくと教育長、今の御答弁の内容で、さらに付け加えたりすることがあればお願いします。

---

熊谷教育長 特に、ございません。

門脇市長 委員長からは、何かないでしょうか。

安部教育委員長 まず、大変遅れて申し訳ありませんでした。非常に責任を感じております。申し訳ありません。

今の適正配置研究検討委員会の冒頭で、私も是非必要だという、委員同士でも必要だということを感じまして、最初の挨拶をさせていただきまして、ここに書いてあるように、私たちは何も考えていないわけではないけれども、こういう方向でいくからこの方法でなんとか頼むとか、そういうことではなくて、

皆さんが、最も地域のことを考えて適正と思われる方向性を打ち出していただきたいと。特に、そこで決定したことではないのですけれども、提言をいただきたいということを、私は繰り返してお願いをしたつもりです。したがって、検討委員会が全て決めるとかももちろんそういうわけでもないし、その提言をいただいて、教育委員会で検討し、総合教育会議でも十分に検討し、目途が立つと言いますか、その提言を受けて仙北市教育委員会並びに仙北市の結論を出していく方向が、一番良いのではないかと考えております。

先日、秋田県の教育委員会委員長・教育長会議というのに参加しまして、その中でも、統合の話がちょっと次第から逸れた形ではありましたが、その話が出まして、先ほど田口次長や所長からお話がありましたように、各地域とも、ただ統合ありきで教育委員会任せでなくて、そこにそうなるイメージで地域はどういう地域にしていこうとするのか、その地域は、こういう地域として生き生きとした活性化を図っていくのだという、行政当局との、そのイメージ作りと言いますか、施策はきちんと持たないと、後々が大変に難儀をしていくと言いますか、市民の、教育ばかりでなくて行政に対する不信感を、結果として募らせることになるのではないかという、そういう心配をした話がいくつかありました。

それぞれ統廃合をするためのメリット、デメリットあるわけですが、改めて非常に難しいなというふうに実感をして帰って参りました。

あとはやはり、地域の関係もありますが、統合することによって、地域性もあると思うのだけれども、小学生と中学生のコミュニケーションが全くなくなってしまうという、例えば、中学生は朝早くバスで出て行って帰ってくると、だから、中学生は何をしているのかわからない、小学生と中学生が先輩を見て育つという姿が、全く消えてしまうという恐れがあるのではないかというのが、特に私は、そのところが大きな問題ではな

いかかもしれないけれども心に残って帰って参りました。

門脇市長

はい、ありがとうございます。

アンケート、これは例えば文言をどれだけ精査しても、アンケートを行うということ事態が、統合ありきという受け止め方をされるという側面は、これは0にできないと思います。

総合教育会議で、正にこのまま看過できない事案だということ取り組みが始まって、そしていよいよアンケート調査を行う、ここに他意は何も無いわけではありますけれども、ただ、市民の方々からすると、教室の中だけで、教育が完結できているということであれば話は別ですけれども、そういうことは全くないわけで、むしろ地域の方々の支えがあってということでしょうから、この現状の中では、いくら言葉を精査しても、アンケート調査を行うということ事態に、統合の背景、そこに至るというパワーを感じるというようなことを、これは0にするということにはできないと思います。それは、覚悟して進まなければいけないと思います。

もう一点ですよ、私ちょっと尖った言い方をしますけれども、こういう話をする方もいるよという話だけはさせてもらいたいと思います。先ほど言ったように、教室の中だけで完結できない教育を行っている、きちんと学習等行っている地域であればあるほど、地域というバックグラウンドが教育にとって重要だという視点があるわけでありまして、これは当然なのですけれども、もう一方で、それを理由に、地域に子どもたちを残したいというその理由で、大人のエゴで、学校を絶対地域からなくしてはいけないというようなお話じゃないですよ、ということ少し私はある先生に言われ、そういうふうな甘えがあったのかなという思いも実はあります。地域の活性化を子どもたちに委ねて、大人の人たちが本来しなければならない地域作りを疎かにしていると、その代役に、兎に角子どもたちの姿を求めているというような甘えはないのか。本来であれば、もち

るん今もそうですけれども、教育は、子どもたちが中心であるというのが原則だと思うのですが、そうすると、子どもたちをネタにした地域作りというような、そういうことは、本意に反する話になってしまう、というふうなお話をされた先生もいらっしやったということでもあります。全てが100ではありませんけれども、そういう考え方もあるということについても、納得をせざるを得ないことも、多少はあるのかなという気がします。

いずれにしても、主役の子どもたちの教育を如何に守るのか、確保するのかということの議論の末のあらゆる形を、私たちは、可能性を作っていかなければならないというふうな思いでは、たぶん一致できると思うので、どうかその点ご理解いただきたいと思います。

ここまで各委員の皆様からお話を聞いた中で、何かお話があれば是非お聞かせ願えれば。

委員 (「特にありません。」の声)

門脇市長 そうすれば、この後のアンケート調査については、先ほどのスケジュールどおりに進めていくことになるでしょうか。

畠山教育部長 今、アンケートの内容でも様々な御意見をいただいておりますし、この後議会でもまた、これでいこうと思っているというようなことを、資料として提出、配布して色んな意見をもらうと、若干微調整はあるかもしれませんが、今の中でも御意見をいただいておりますので、そういったところも調整して、最終のアンケートの内容というふうにしていきたいなと思います。宜しく願いいたします。

門脇市長 はい、ありがとうございます。

それでは、協議案件「(1) 学校適正配置に関するアンケート

ト調査について」は、一旦ここで終えることといたしまして、「(2) カヌー競技に関するオリンピックホストタウン誘致について」という協議内容に移りたいと思います。

これは、私の方から。東北市長会で出た話なので、皆様方に、資料としてお配りさせていただいたという状況があります。

ホストタウンについてこのとおりなのですが、東京オリンピック、パラリンピックの協議会の推進本部からの情報の提供ということでお話がありました。全部でいくつものホストタウンが、スポーツ競技を中心にありますけれども、世界の各国のチームと交流をする、もしくは、支えをするというような市町村が、できるだけたくさん誕生して欲しいというような内容であります。それについては、特別交付税の算定基準としますという話で、基本的には、国庫が応援をしましょうという内容なように捉えてきました。

たまたまこの話に前後してというところから、実は教育委員会の方からお話を少しいただければありがたいと思ったのですけれども。

畠山教育部長

はい。これに関して、先日ですけれども、カヌーの関係でホストタウン化がされる方向に動かないか、動くことができないかというようなことで、カヌーというのはヨーロッパとかが非常に盛んなようで、生活の中にカヌーがあると。例えば、北欧であれば、生活の中にスキーがあるとかがそういった感じかと思うのですけれども、その中で、秋田に在留しているベラルーシ共和国の名誉領事館の方、6月4日にベラルーシの大使として赴任される外務省の方がみえられまして、その話を伺いました。

東京オリンピックのカヌー合宿候補地として、仙北市がホストタウンに指定されるとすれば、今市長が言ったように、国から半分くらいの補助があると。I O C（国際オリンピック委員

会)の方から指定のコースになると、さらに補助が出るという  
ようなことで、当然、指定になるとすれば、会場であったりコ  
ース整備であったりの経費がかかると。現在は、生保内発電所  
の下流の所ですか、県と県の境界、市として河川占用とかそう  
いったような許可をいただいて準備しているところなのです  
けれども、どういった内容の整備が必要になるかということ  
は、県を通して聞いた方が良いのではないのかというアドバイ  
スをいただきました。

また、佐竹知事も観光文化スポーツを担当している部長もO  
Kと言っているので、仙北市としても、是非どうかというよう  
な方向を出して欲しいなということで、全国で6カ所くらいの  
候補地があるそうなのですけれども、そのところを早く協議、  
検討していただきたいということと、そのためには、カヌー  
一人人口の増加対策なんかも必要になってくるのではないかな  
と。例えば、極端な例としてかもしれませんけれども、角館高  
校にカヌー部ができるとか作ったとか、そういうようなところ  
で下地から競技を支えていく、というような競技人口の拡大な  
んかも必要だと思います。さらに飛躍すれば、カヌーの製造と  
か造るとか、そういったところまでも未来志向の方向があれば  
いいんでないか、ということも話されました。

今、佐々木兄弟がリオデジャネイロオリンピック、仙北市に  
事業所がある会社に勤めているわけですがけれども、今年のオリ  
ンピックは出場するわけですがけれども、来年とか、出場した後  
にメダリストを呼んで、一緒に大会とかカヌーをやるとかそう  
いう話題提供なんかも、宣伝効果があっているのではないかと  
いうことが提案されております。

市内、議会も含めて一緒になって動いて行って欲しいな、と  
いうふうなことを要望されております。

船場の、生保内発電所の下流のカヌーコースにも案内して行  
きましたけれども、全世界のカヌーコースを見ている方だと思  
いますけれども、距離が非常に短く、小規模でかわいいコース

だなど、そういうようなこぢんまりしている、ということだと思うのですけれども、そういったような感想もいただいたので、どの程度のレベルの競技コースなのかというふうなところをもっと具体化できればなと思った次第でございます。

カヌーに関しては、以上でございます。

門脇市長

はい、ありがとうございます。

この前のノースジャパンカップの時に、秋田県カヌー連盟の顧問の柴田康二郎先生とか、会長の増田先生、県のスポーツ振興課の渡辺さんとかのお話ではですね、今競技スポーツとしてのカヌーの練習場、生保内カヌー練習場は、とても素晴らしい、国内にも屈指のコースだというお話をさせていただいて、それより下流側の方にカヌーコースを、市民の方々が楽しめるカヌーコースの可能性が非常に高い流れなので、是非皆さんで川下りみたいなものを楽しんでいただければいいのではないかと、というお話はいただきました。その際に、ただ、そのようなカヌーの、市民スポーツとしても皆さんに楽しんでいただくと考えた場合ですね、最初は筑波大学の関係でしたかね、日本カヌー連盟でしたかね、コース設定した時に、その時から、シャワー室と更衣室とトイレの設置が何とかならないか、というお話をいただいてきた経緯があって、今回、カヌー協会の関係の方々からお話をいただいた時に、私がお答えしたのは、市がそれを全て請け負うのは大変厳しい状況だけれども、秋田県と一緒にあって、例えば、先ほど話をした、シャワーだったりトイレだったり更衣室だったりというものを設置するというこの流れを作るのであれば、是非私共も加えて欲しいというお話はさせていただいております。

要するに、秋田県内の様々な方々、団体の方々が主に使うという物に対して、県は県なりに御負担いただきたいと、仙北市も当然御負担させていただくというお話をさせていただいているという状況でございます。こういうことが重なって行って

初めて、ホストタウンにまで辿り着けるのかなというふうに思いますけれども、たまたまベラルーシの話は、日本ベラルーシ友好協会がありまして、これはなんと、日本全体の事務局が、秋田市にあります。秋田市に設置になった理由がいくつかありましてですね、たぶんここには西木正明さんも参加していると思います、協会の発足の際には。基本的には、チェルノブイリの原発の事故の後の医療に対する支援等を長く続けていこうというNPO法人なのですけれども、そこには、佐々木正光さんもたぶんいらっしやったと思います。という関係があって、秋田県が日本のベラルーシ友好の一応拠点になっているという、その位置的な状況もあったりして、熱心にカヌーに関する市町村にお話をしているというふうに理解することができると思って、お聞きしておりました。

この件に関しても、皆様から色々と御議論、御協議をいただく場面にしたいと思いますが、何か、河原田職務代理者からありますでしょうか。

河原田職務代理者

カヌーに対しては、何をどうお話しすればいいかわからないのですけれども、もし、ここに誘致できるのであれば、それに越したことはないのかなと思いますけれども。

門脇市長

そうですね。

坂本委員から何かありますでしょうか。

坂本委員

実現したら素晴らしいなと思います。

合気道の世界大会なんかも今後ありますので、カヌーに限らず色々な方向に考えられるかなとは思いました。

門脇市長

そうですね。

仙北市の今後10年の追い求める理想の姿は、「小さな国際文化都市」ということで、標榜していこうというふうにお話を



していますので、まさに色んなパーツが揃い始めていくのかなというような気もしますけれども。

佐久間委員何か。

佐久間委員 　　桧木内川には、コースはないものですか。

河川公園の向かいの辺りとか。

門脇市長 　　河川公園の所は、ちょっと底が浅いみたいで、前に桧木内川の源流から、桧木内川を全部下ってみようというプロジェクトをやられた方々がいらっしゃって、ゴムボートで下ったのですけれども、その時の参加者は、部長ですね。

その時の、桧木内川の状況をお願いします。

藤村総務部長 　　桧木内川は、スタートの辺りは、見ただけで浅いです。最初に乗ったのは中里辺りかな、その辺からですね。最後、河川公園の所まで行きました。ただ、オリンピックの時のカヌー競技、特に印象に残っているのが、北京オリンピックのワイルドウォーター。あれって、あの程度じゃないよなど、もっとすごい急流でやるというようなイメージ。たまに、全日本の競技とかを見ても、やっぱりあれは、大人しいコースみたいなのではなく、競技としては、もっと急流とかそういうものなのかなというイメージはあるので、練習用ということでもいいのかなという感じなんです。国体はそこでやったからできるにしても、国際大会であそこはどうかのかなと思います。ただ、あそこの場合、発電所の放流によって水位を調整できるというのが、すごい魅力なのかなと思いました。以上です。

門脇市長 　　佐久間委員、そういうことでよろしいでしょうか。

佐久間委員 　　はい。

門脇市長 教育長、何かありますか。

熊谷教育長 県内であれだけ素晴らしいコースはここしかないですから、使わない手はないと思います。ましてやカヌーというのは、北欧では本当にカヌー文化ですごいでもんね。だから、お洒落なスポーツというイメージもありますしね。それこそ、10年先を考えたスポーツ文化というのを考えていった場合に、カヌーというのは非常に魅力的なスポーツではないですかね。馬術とかも、角館高校に馬術部を作るとか、今までも色んなことがありましたけれども、角館高校で良いかどうかは別として、カヌー競技というのは、これだけのコースがあって、かわいいと言われたのがちょっと心外でした。ここしかないでもんね、由利本荘や湯沢にもありますけれども、やっぱりここが一番整備されていますしね。私は、大いに取り組むべきだと思います。ホストタウン、目指すべきだと思います。

門脇市長 委員長は、何かありますか。

安部教育委員長 もちろん、是非とも実現して欲しいなという思いに変わりはありません。一つお願いしたいのは、招致するのはもちろん上手くいったら是非招致して欲しいのだけれども、それが一過性で終わることではなくて、これから芽を出して頑張っていくということも必要でしょうし、今ベラルーシとの交流云々という話でもまして、市長さんが、国際交流都市宣言というのを標榜しておられるだけで、そういう意味では、カヌーを通して市民自体が、ベラルーシだけでなくいいのですけれども、交流ができると。例えば、さっき部長から高校にもカヌー部があればとか話がありましたけれども、中々大変なことだとは思っているけれども、ただすぐカヌーを普及したいと、小学生とか発想ができてきやすいのですけれども、絶対にこの交流を活かしたいというか、仙北市は真剣にやろうとしているよ、という大人の姿を

きちんと見せないと、子どもは、ただ利用されただけになってしまうのではないかという不安があります。マイナス思考ではないのですけれども。是非ともそういう方向で、カヌーを招致するとすれば、今現実にも私もそうですけれども、カヌーとはどのようなものなのか、市民もほとんどわからない状態にあるわけで、まず、市民の皆さんに、やるやらないは別にしても、色々な形でカヌーの理解を広めて、そうしていけば、大人がわかれば子どもにもやらせてみようかな、というふうになってくのではないかなということで、回り道ですけれども、まず、大人が本気になることではないかなというのを感じました。

前向きなつもりの話でして、決して否定しているわけではありません。

門脇市長

ここは、総合教育会議なので、教育分野だけでない色々な分野の話を出すことも、また要素として必要なのかなということでお話させてもらいますけれども、観光関連の方々から話を聞くと、カヌーというレジャーのアクティビティーが非常に高いということで、仙北市が、もし、仮にそのアクティビティーの一つとして、カヌーを推進していこうという、スポーツとして捉えるとかレジャーとして捉えるとかってということと $+ \alpha$ で、外部からの訪問者を増やすというツールとしても非常に有望視されているので、田沢湖ではたまにやっておりますけれども、溪流アクティビティー、これから皆さんに普及していくには、中々良い場所ではないでしょうかという話は、お聞きしています。できれば私としても、今、教育委員長、教育長、各委員の方々から話があったとおり、できれば実現していきたいなというふうに思います。

これについては、どちらの方で所管して、どうすれば進まるのかよくわからないのですけれども、順番を、実は今、県のスポーツ振興課との、飯坂課長もよくわかっていますけれども、totoの助成金を活用して、シャワー室、更衣室、トイレを設置

という方法もあるよ、という話もありましたけれども、どういう段取りでそれを進めていくというスケジューリングがイメージできないので、これは、教育長、スポーツ振興課の方々を中心にという考え方ですか、それとも、どうでしょうか。どこか別のセクションの方がいいのでしょうか。一応そこを後で議論いただきますけれども。それと、このホストタウンの誘致というものは、力を持ってホストタウン誘致をするというと、そういう施設整備の計画も動きますよということが、一つのホストタウン誘致に対しては、インセンティブであるのかなというふうに思いまして。これをどの段階で、どの順番で、どういふふうに進めていくのかということですね。

熊谷教育長

私の基本的な考え方としましては、例えば、前あそこのカヌー場が洪水で壊れる以前は、議会でかなり一般質問を受けているわけですね。あの当時の考えとしては、教育委員会スポーツ振興課でやっていこうという影があったと思います。それに非常に大きなホストタウンというオリンピックを指向して出てきた訳ですけれども、もちろん合同でやるのだけれども、カヌー競技の振興に関しては、スポーツ振興課でこれまでどおりやっていくと。それからやっぱり、大きなオリンピックを見据えたホストタウンということになれば、連携しなければなりませんので、市としてやっているというイメージが非常に大切、市全体として取り組んでいるイメージが非常に大切だと思いますので、企画なり総務なり市長部局の方と連携してやっていくと、まず、カヌーの部分に関しては、スポーツ振興課で今までどおりやっていくと、そういう形でいいのではないかなと思います。

門脇市長

なるほど。予算的な話も議会でも何も話していないので、この話は、議会の方に6月2日に開催される市議会の冒頭で、市政報告の中でこのような話を少し盛り込んでいただく、という

ことをさせていただければありがたいなと思います。先ほど話した、施設の整備について、県のスポーツ振興課と市のスポーツ振興課とのやり取りを是非して欲しいと思います。総合教育会議で話があったということで、もう一方では、例えば、総務部でホストタウンについて、内閣府の所管ということもありますので、ホストタウンということについては、総務部の方で所掌して情報収集と対応に動き始めるというような考え方で整理を。いつもお互いに情報を共有していくということで、教育長の言ったとおりの話でよろしいですか。

熊谷教育長           良いと思います。市を挙げて頑張っているのだというのを目指していかないと、予算等関係してきますから。

安部教育委員       今、教育長が話したように、競技の普及活動とか、施設設備  
長                    に関しては、教育長の言ったとおりで良いと思います。ただ、これを一つのベースにして、観光振興とか、様々なたくさんの人の行き来を活発にするとか、国際交流云々となれば、やはりそのプロジェクトチームのようなものを市として独自に立ち上げて、その中には、推進課の職員も入っていいと思いますけれども、総合的な戦略として、誘致にぶつかっていくとなれば、教育委員会だけでは、ちょっとスタッフ的にも大変厳しいのではないかなと。また、教育長も言ったように、市が自ら立ち上がってやるのだという姿勢を見せてもらった方が、たくさんの方々にも受け入れてもらえるのではないかと思いました。

門脇市長            まさに、そのとおりだと思います。この後の、推進の舞台の作り込みについても、この会等で状況の報告、相談をしながら、お互いの動きやすい状況を作っていければいいなと思いますけれども。

                      議会の方には、どの辺までお話できるのでしょうか。総合教育会議で話し合われましたという話は事実なのですけれども。

藤村総務部長　　この資料の4ページの最後、締め切りが今年の10月末という話なので、もし本当に手を挙げるとすれば、相当踏み込んだところまで今やらないと。もう二次は5月19日で終わっているから、三次10月末って、9月議会まで待つてという話ですけれどもたぶん無理ではないか。

門脇市長　　そうすれば、6月議会ですっかりとそういう方向性で物事を進めたい、という話をした方がいいですね。

藤村総務部長　　それが、総合教育会議絡みなのか、オリンピック、パラリンピック絡みとかそこを含んでくるのか、そこは判断が必要ですから。

門脇市長　　畠山教育部長、佐々木代表の話では、いつまでとかっていう話はあったのでしょうか。

畠山教育部長　　それはなかったですね。ただ私も、この資料を見るまでこの資料があるかもわからなかったので、いくらでも早めに決めて欲しいと。県と相談をして、仙北市だけではできないことでもないと思うので、県なりと一緒にやるように、立候補の意思表示を早めに決めてもらいたいことだけは、言われましたけれども。

門脇市長　　これ仮に仙北市がホストタウンに手を挙げますという話になった後に、例えば、シャワーとか更衣室とかトイレとかを作りたいのだけれども、県の人たちも一緒にという、状況はあまり良くなりそうでしょうか。市が全て抱えてという話でなくしたいと、ずっと前から皆様のお話のとおり、県も市も少しずつカヌー連盟の方に応援しますよ、という話のシナリオを書ければなと思ったのですけれども。

畠山教育部長

ただ私も、ホストタウンに指定になる場合に、たまたま今カヌーの話をしておりますけれども、トイレとかシャワーとか更衣室とか、仮にやる物にしても、あるいは、コース整備にしても、どの程度のレベルのものが必要なのかと、この前もお話した時に、小規模でかわいいコースだなということは、たぶん佐々木さんももっと大きいイメージというか、世界のコースを見てきていると思うので、そういうイメージだったのではないかと聞いていたのですけれども。例えば今、100メートルあるものを200メートルにしたいとか、200メートルのものを300メートルにしなければいけないとか、あるいは、ギャラリー席だとか観客席だとかそういうようなところも含めると、どのようなコースにしていかなければならないのかということと、シャワー、トイレは、どの程度の規模なのかという、そういう青写真みたいなのがないので、私もピンときてなかったのですけれども、その辺に関しては、県の方、たぶんカヌー協会の方も絡むと思うのですけれども、そこが掴めない、これだけの事業量があるということが大雑把であれ掴むことができないと思いますので、そこがまず先決かと思います。

門脇市長

わかりました。

そうすれば、お願いですけれども、県のスポーツ振興課の方とやり取りを始めてください。総合教育会議で、方針付けがなされたということを前提にして、ホストタウンの話を絡めることがどうかということは、先方に話をしてください。スポーツ振興課に話してもらって、ホストタウンに手を挙げたいということで準備を進めるけれども、その時にカヌーのコースとか施設整備とかのボリュームに、自分的ではあのカヌーのコースに手を加えるということは、基本的にないと思っています。かわいいということであれば、かわいい施設を造ればいいだけで、シャワーとかコンパクトなものを造ってもいいのではな

いかなと私は思うのだけれども、その青写真については、カヌー連盟の方で描いたものがあつた話を聞いたことがありますので、最初は、スペースハウスでもいいのではないかという話があつたくらいですので、あまりお金はかからないと思います。いずれにしても、県のスポーツ振興課とやり取りを始めていただくということで、よろしいでしょうか。

そうすれば、そのような形で進めさせていただきたいと思います。市民の方にも、そのような方向性で話をさせていただければなと思います。

ホストタウンについての協議は、以上になります。

門脇市長

はい。それでは、その他に入りたいと思います。

では、御説明をお願いします。

畠山教育部長

その他ということですが、資料5を見ていただきたいと思います。

これは、現在、図書館や市民会館がありますけれども、指定管理者制度を導入するとすれば、どういうことが必要なのか、可能なのか、不可能なのかも含めまして、昨年度から色んな図書館を視察させていただいたり、市民会館みたいなホール、劇場みたいな所を視察させていただいたりという経緯がございまして、その経緯を踏まえながら、この後、指定管理者制度の導入する、しないの検討を始めたということで、皆さんに知っていただきたいなということで、それはこの職員によるまだ内部の協議、検討の資料なので、参考にさせていただきたいと思います。

まだこの後も、様々な協議、検討、あるいは、視察も入ってくるかと思いますが、そういったところを今進めているということで、結果はともかくとしても、どのようなことが可能か予算的なことも含めて、今後、協議、検討しなければいけないという状況になっているということ、をご確認いただければ



ばと思います。以上です。

門脇市長           はい、この指定管理者制度に関する協議、検討の会議録がありますけれども、お読みいただいて、何か御発言があれば。資料を見ていただく間、休憩にしたいと思います。

(5分間休憩)

門脇市長           では、再開します。  
これは今、まだ検討の道筋の中にあるということですね。

畠山教育部長       はい、そうです。

門脇市長           いつまで結論を出す、という話ではないですか。

畠山教育部長       目途としては、今年の秋ぐらいに出したいなど。仮に、29年度から離してやれるのは厳しいと思うので、29年度に予算措置して、可能であるとすれば30年度からのスタートになると思います。予算、人員、それからメリット、デメリット等もまとめなければならないですし。仮にやるとしても、手を挙げてくれる人がいないとどうしても厳しいものがあるので。特に、劇場運営とかがつてなると、図書館とかは、様々なところがあるようですけれども、劇場、市民会館のような所になると、果たして「はい。」と言ってくれるかどうか、非常に心配な要素ではあります。

門脇市長           そうですね。  
この案件は、これぐらいのお話の共有でよろしいでしょうか。

畠山教育部長       はい。

門脇市長

はい、わかりました。

そのような形でということにさせていただきたいと思いません。

それでは、私から、その他で1件だけあります。

この前、田沢湖リフト株式会社の株主総会があって、その時の株主の方々からお話をいただきました。田沢湖スキー場の方からの話だったのですけれども、仙北市の観光課で「仙北市ががんばれ合宿応援事業」をやっていますけれども、その合宿応援の事業は、県のスポーツセンターの施設自体が対象外になっているわけですが、何故対象外なのかという話なのです。多分、予算を措置した時の考え方としては、スポーツセンターが民営を圧迫してはいけない、というような考え方が前提にあって、施設にできるだけ市民の方々、たくさんのお客様をお迎えするということの応援、というような意味合いもあって、市の方で応援できるのは、市民の皆様方が活用される場面について、ということにしたのですけれども。ただ、それが本当にそういうことだろうかという、0か100か、というお話だったのです。要するに、今、1団体1人当たり2,000円という上限で事業を行っているのですけれども、仮に、100パーセント2,000円でなくても、50パーセント1,000円とか25パーセントとか、0か100でなくしてもらえないかということでした。それは、スポーツセンターの使い方というのは、決して合宿だけでなく色々なセミナーとかをやっていることもあって、色んな所にパンフレットを持って、御案内や販売促進活動に行くみたいなのではすけれども、来られた方からすると、市の、自治体の応援があってこれだけのメリットがありますよっていうのが多くて、全く0でいくと、話を聞いてもらうだけがやっとな状況だと、この前の佐藤大成議員の一般質問の時に、スポーツ交流とか様々な仙北市に滞在している方々がどれぐらいの数があるのかというお話をお聞きした時

に、やっぱり、スポーツセンターの占める割合がとても大きかったのですけれども、それを応援していく方法っていうのは、決して民営圧迫にならない、何らかのやり方があるのではないかなと思っただけの話です。

この話を、総合教育会議でお話することは、自分の中でも整理できてない状況ですけれども、スポーツセンターという名前ですし、皆様方からどんな御意見をいただけるものなのかなと思ってのお話でした。

ということで、説明がてらこれまでの経緯をお話したのですけれども、いかがなものでしょうか。今は、0か100の状態です、全くお出ししていない状態です。

これは何かスポーツ振興課の方に御要望はきていますか。

平岡スポーツ振興課係長 特にないです。「何でそのスポーツセンターを利用した場合に対象にならないのか。」という軽い質問くらいは受けていますけれども、「なりません。」ということで「県の施設ですし、格安で泊まれるような施設ですの。」というようなニュアンスで説明しています。

門脇市長 そうですよ。多分、100点満点の答えだと思います。だから1人2,000円の補助はない、ということですが、1人500円でもよくないか、という話なのです。これは有りではないかと思えます。そうすれば、スポーツセンターはもっと売り込みしやすくなって、仙北市に滞在していただける方々の数を増やすことができるかもしれない。

佐久間委員 あれは昔から、経営で試算表とかはなかったですか。

門脇市長 ないですね。

あれは、基本的には田沢湖高原リフト株式会社の事業項目に入っていますので、県が田沢湖高原リフト株式会社に指定管理

しています。

畠山教育部長 本当は、日本体育協会直営でした。日本体育協会の直営から県の方に移管しました。

安部教育委員長 現実には、色々な合宿の利用状況というのはあるのですか。

藤村総務部長 1万5千人～1万6千人くらいあったと思います。

佐久間委員 仙北市のスポーツ振興と一緒に進めれば、もっと有効に活用できると思いますけどね。

門脇市長 田沢湖高原リフト株式会社からすると、売り上げがどうなるのでしょうか。

佐久間委員 仙北市がスポーツで売りましよう、国際都市を目指しましようという一貫で使わせてもらえれば、大学の合宿とか、良いのではないのでしょうか。

400メートルのグラウンドもありますしね。昔から田沢湖町でやらないというのが不思議に思っていました。

第三セクターのような形で仙北市に委譲すればいいのではないのでしょうか。

安部教育委員長 何年か前までは、日本体育協会の施設でそれを秋田県に委譲したという形ですね。

畠山教育部長 日本体育協会からは手が離れているので、秋田県で委譲することであれば良いと思います。

佐久間委員 400メートルのグラウンドもありますし、あそこに総合体育館とかができて、仙北市市民運動会とか仙北市のスポーツの

拠点になればいいですよ。

門脇市長            ということで、0か100ではなくスポーツセンターに応援するということを、検討していただける余地はあるのでしょうか、という御提案でした。  
                          これは、総務部の方ですか。

藤村総務部長        観光課と話をしないとだと思えます。

畠山教育部長        そのエリアをスポーツセンターの対象にするかどうか、そのまま半分の補助とかにするのか。

安部教育委員        多少補助した方が、私は良いと思えます。  
長

門脇市長            そうですね。そういう制度として運用していかせるということで。そうすれば、それは総務の方でお願いしたいと思えます。

門脇市長            他に、その他で何か皆様方からこの機会に是非、ということがあればお願いします。

河原田委員長        今のことですけれども、2,000円の補助で、民営圧迫にならない程度の値段になるのですか。

                          例えば、2,000円補助されれば、ちょうどスポーツセンターに泊まるくらいの値段になるのでしょうか。

畠山教育部長        一泊いくらでしたかね。

平岡スポーツ        大人で6,300円くらいだったと思えます。

振興課係長

畠山教育部長        子どもで5,000円くらいだったかなと思えます。

河原田委員長 例えば、繁忙期は補助するけど、それ以外は補助しないとか、  
職務代理者 期間限定だとか。そうすれば、あまり民営圧迫にならないのか  
など。

門脇市長 どちらがいいのでしょうか。

シーズンでというのもいいかもしれないですね。お客様があ  
まり動かない時に、安く泊まれる所にさらに応援して、お客様  
を引き込んで、あと例えば、湯めぐり号で温泉に入って行って  
もらうという手もあるのかもしれないですね。

これは、観光の戦略ですね。

門脇市長 坂本委員、何か。

坂本委員 特にありません。

門脇市長 佐久間委員、何か。

佐久間委員 市長の先ほどの冒頭の御挨拶で、将来、年数に合った人材を  
育成する。これは、そのとおりだと思うのですがけれども、その  
言葉の中に「K P I」の達成という言葉がありましたけれども、  
その言葉を初めて聞きましたので、簡単に説明していただけれ  
ばと思います。

門脇市長 「K P I」というのは、目標設定の数値であり、正式名称は、  
「重要業績評価指標」です。

藤村総務部長 例えば、人口。長ければ2040年に半分くらいになるとか  
って、3万人の半分、1万5千人くらいになるわけですがけれど  
も、これを2万人でキープするとか、項目ごとに色んな数値目  
標を作ってあります。今までも、言い方はK P Iとは言わなか  
ったですがけれども、目標数値を設定もしておりましたけれど

も、それをもっとインパクトあるような形で、色んなこの施策をやることによって、この数値はこうなる。例えば、観光客が500万を600万にするとか、仙北市として、行政がやる施策によって、この数値はこういうふうにしますということを、個々に謳ってあります。そういうことです。

門脇市長           それは、この事業をやると目標設定数値がクリアできる、ということで進むので、その事業に対して応援しましょうというような、国からの応援があるわけです。それが達成できなかった時には、達成するまでやらなければならないとか、今までの目標は、自分たちが掲げた目標です、だけではない。

佐久間委員           「K P I」は、最近出た言葉ですか。

藤村総務部長           そうですね、地方創生の話が出てからですね。

門脇市長           教育長から何かありますか。

熊谷教育長           特にありません。

門脇市長           教育委員長から何かありますか。

安部教育委員長       はい。先ほど、市長さんが話をした中で、非常に示唆に富んだ言葉で、難しいというかあまり日頃考えていなかったことが、学校が教室だけで解決できない教育であると、それはそのとおり、地域との連携という部分ももちろんあるわけで、学校を残すことが大人のエゴになっていないかというような問いかけ、また、逆に私の思いは、学校があるということだけで、地域作りをしているという錯覚に陥っていないかというような考え方、やっぱり教育というものを、私たちは兎に角教育を守りたいと思っていますけれども、様々な視点で考え直さなけれ

ばいけないなど。私は、統合が良いとか悪いとか言っている訳ではないのだけれども、指針が、学校があれば町作りをしているというふうに思ってきていなかったか、という市長さん自らの反省だと思います。そういう意味でも、新たな視点を与えていただいたことを、御礼を申し上げたいなと思いました。以上です

門脇市長

はい、ありがとうございます。

その他で皆様方からお話をいただきましたので、進行をお返しいたします。

藤村総務部長

それでは、本日の総合教育会議を終了いたします。

大変、ご苦労さまでした。

(午後 2 時 1 0 分終了)

上記会議録に相違ないことを認め署名する。

仙北市長

仙北市教育委員会委員長

仙北市教育委員会委員長職務代理者